

平成20年度 **数学特論8** (学部) **レポート問題**
表現論大意 (大学院)

出題：2009年1月16日 (担当：野村隆昭)
 [1], [2]の両方とも解いて、A4 レポート用紙にて数理事務室に提出すること。
提出期限：2009年2月6日 (金) 厳守

以下 $\mathcal{D} := \{z \in \mathbb{C}; |z| < 1\}$ とする。

[1] $\mathcal{D} \times \mathbb{R} = \{(z, \omega); z \in \mathcal{D}, \omega \in \mathbb{R}\}$ に次の式で積を定義したものを G とする：

$$(z, \omega)(z', \omega') := \left(\frac{ze^{-2i\omega'} + z'}{1 + z\bar{z}'e^{-2i\omega'}}, \omega + \omega' + \frac{1}{2i} \operatorname{Log} \frac{1 + z\bar{z}'e^{-2i\omega'}}{1 + \bar{z}z'e^{2i\omega'}} \right).$$

ただし Log は \log の主値を表すものとする。

(1) G は群をなす事を示せ。

(2) $SU(1, 1) := \left\{ \begin{pmatrix} \alpha & \beta \\ \beta & \bar{\alpha} \end{pmatrix}; \alpha, \beta \in \mathbb{C}, |\alpha|^2 - |\beta|^2 = 1 \right\}$ とし、

$$\pi(z, \omega) := \begin{pmatrix} \alpha & \beta \\ \beta & \bar{\alpha} \end{pmatrix} \quad (\alpha := (1 - |z|^2)^{-1/2} e^{i\omega}, \beta := z(1 - |z|^2)^{-1/2} e^{i\omega})$$

と定義すると、 π は G から $SU(1, 1)$ への全射な群準同型を与えることを示せ。
 また π の核も求めよ。(実は G は $SU(1, 1)$ の普遍被覆群になっている。)

[2] 2点 $z_1, z_2 \in \mathcal{D}$ の双曲距離を $d(z_1, z_2)$ で表す。講義で示したように

$$d(z_1, z_2) = 2 \operatorname{Arc} \tanh \left| \frac{z_1 - z_2}{1 - \bar{z}_1 z_2} \right|$$

である。また $d\sigma$ は \mathcal{D} 上の測度で $d\sigma(z) := \frac{4 dx dy}{(1 - |z|^2)^2}$ ($z = x + iy$) となるものとする。実数 λ に対して \mathcal{D} 上の函数 $f_\lambda(z) := [\cosh d(0, z)]^\lambda$ ($z \in \mathcal{D}$) を考える。

(1) \mathcal{D} の双曲極座標 (Cartan 座標) $z = e^{i\varphi} \tanh \frac{\tau}{2}$ ($0 \leq \varphi < 2\pi, \tau \geq 0$) により $d\sigma(z) = \sinh \tau d\tau d\varphi$ となることを示せ。またこれより $f_\lambda \in L^1(\mathcal{D}, d\sigma)$ となるための λ の条件を求めよ。

(2) a_t ($t \in \mathbb{R}$), n_ξ ($\xi \in \mathbb{R}$) はそれぞれ次の一次分数変換とする：

$$a_t(z) := \frac{(\cosh \frac{t}{2})z + \sinh \frac{t}{2}}{(\sinh \frac{t}{2})z + \cosh \frac{t}{2}}, \quad n_\xi(z) := \frac{(1 + \frac{i}{2}\xi)z - \frac{i}{2}\xi}{\frac{i}{2}\xi z + 1 - \frac{i}{2}\xi}.$$

このとき、 $\cosh d(0, a_t \circ n_\xi(0)) = \cosh t + \frac{1}{2} e^t \xi^2$ であることを示せ。

(3) $f_\lambda \in L^1(\mathcal{D}, d\sigma)$ となる λ に対して、函数 f_λ の Harish-Chandra 変換 $\mathcal{H}f_\lambda$ を直接求めよ。ただし

$$\mathcal{H}f_\lambda(t) := e^{\frac{t}{2}} \int_{-\infty}^{\infty} f_\lambda(a_t \circ n_\xi(0)) d\xi.$$

以上